



talk! talk! talk! 女優・佐藤江梨子さん



女優 佐藤江梨子さん

雑誌、CM、ドラマ、舞台に映画、執筆活動と幅広く活躍をされる佐藤江梨子さん。モデルとしてカメラの前に立つ一方で、自分がシャッターを切るときには細部のロケーションを気にするというこだわりの話をうかがいました。

プロフィール

さとう・えりこ。1981年、12月19日生まれ。グラビアアイドルとして活躍するかたわら、存在感のある演技が目され、女優としても高い評価がある。2003年に『プレイガール』で映画主演デビューを飾った後、2004年に主演を務めた『キューティハニー』で大ブレイク。

主な映画出演作品に『日本沈没』（2006年）、『口裂け女』（2007年）、『腑抜けども、悲しみの愛を見せろ』（2007年）、『GOEMON』（2009年）、『斜陽』（2009年）、『すべては海になる』（2010年）、『その街のこども 劇場版』（2011年）などがある。

Beginning 出会い

写真を気軽に載せたブログの反響で、撮影することに力が入るようになった

思い出に残っていることはありますか？

以前撮影の現場で、「カメラのフィルムで、フィルム止めのシールを舐めるとミントの味がするものがあるよ」と聞いて、凄く興味を持ちました。現場スタッフさんに「それで写真撮ってー！舐めてみたい！」って無茶振りをしたことがあります（笑）。結局、そのフィルムは見つからなかったんですけど。

「撮る側」として写真に興味をもたれたのは、なにがきっかけですか？

ブログをやっているんですが、自分を携帯電話のカメラで撮って、その写真をブログに載せてるんです。私自身、写真は気軽な気持ちで撮っていたのですが、ブログを読んでいただいた皆さんから多くの反響があったんです。それは、思いもかけなかったことで、ファンの方が気にしてくださるなら、もっと素敵な写真を撮りたいと思うようになったんです。今では携帯電話を買うときは、画質重視で選んでいます。以前はコンパクトデジタルカメラを持ち歩くこともありましたが、比率としては携帯電話のカメラで撮る方が圧倒的に多かったですね。

コンパクトデジタルカメラではどんな写真を撮られていたのですか？

人を撮ることが多かったですね。同じ事務所の人をお互いに撮り合う機会があったのですが、仕事ですし人を撮るわけですから、適当には撮れない。そのときはコンパクトカメラとはいえ、美しく撮影するためのアングルなどを研究しました。それとグラビアの撮影を思い出し、フォトグラファーさんの撮り方を真似て「こっち、目線ください、カワイイー！」って。結構形から入っていましたね（笑）。

Pleasure 楽しみ

細部にこだわることで最高の一枚が生まれることを、被写体として知っていた

佐藤さんが撮っていて楽しいと感じる写真はどのようなものでしょう？

子どもは撮っていて楽しいですね。友だちの子どもに撮られるのが大好きな子がいて、カメラを向けるとモデルばりにポーズをつけるだけでなく、ちゃんと表情も作るんですよ。泣いていてもカメラを向けると泣くの忘れてポーズをとるから、すごく面白いんですよ（笑）。

動物の写真を撮ることでカメラにハマる人が多くいらっしゃいますが、佐藤さんはペットの写真などは撮られますか？

飼っていたワンちゃんを撮っていたことがあります。普段からうるさくしないよい子なんですけど、「は〜い、笑いましょ〜！」といってレンズを向けると笑うんです。片方の口角が上がって、引きつったみたいに（笑）。今は友だちの家で飼われているんですが、カメラを向けるとやっぱり引きつった笑いをしますんですよ。

写真とかかわる機会の多い佐藤さんは、やはり写真を見る目が肥えてらっしゃるのだと思いますが、いかがでしょう？

子持ちの友だちがけっこう多いので、年中写真つきでメールが来ます。子どもはやっぱりかわいいですから、撮りたい気持ちになりますよね。でも、送られてくる写真に一人でツッコミ入れちゃったりしてます！ 小さいことなんですけど、写真の端に写っているクッションの傾き具合が揃ってなかったり、子どもが動いて落としちゃったティッシュボックスなんかがあるままの状態に写っていたりすると凄く気になるんです。私だったら片付けて、ロケーションを整えてから撮るわ、なんて（笑）。子どもの写真って主役の子どもが動いちゃうから、撮ることに必死になるのはわかるんですけどね。。。

よい写真を撮るコツは小さなことにも気を遣うことなのですね。

モデルの女の子とか、友だちに「オーディションで受かるような写真の撮られ方を教えてください！」と聞かれることが多いんですよ。写るときは斜め45度を意識するとか、白系のバックには黒い服の方が映えるとかを教えてください。

斜め45度だと、どういう印象を与えるのでしょうか？

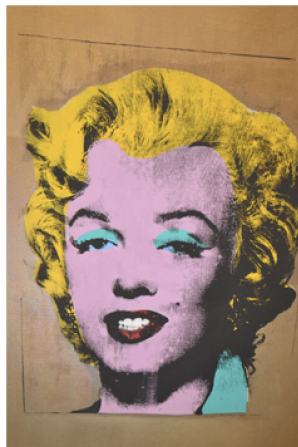
真正面から見ると、どうしても顔が四角っぽく見えてしまうんですよ。どうして四角く見えるのがダメかっていうと、四角のものにたいして人間はあまり興味をもたないと聞いたことがあって。赤ちゃん番組のセットって丸とか三角のものがちりばめられたものが多いですね。だから斜めに写ると丸みがあるように見えるので、視覚的に興味を持たれやすいんですって。

細部にまでこだわると、まさに完璧な被写体ですね。

そんなことないです（笑）。でも家や撮影の合間に撮る自分の写真は、ライティングにこだわりたくても難しいので、メイク台とか、少しでも光の強いところで撮るようにしているのがこだわりかな。メイク台や洗面台のライトって、人をきれいに见せるように設計されていると思うので、撮影するのにおすすめのポイントですよ。



Photo's 作品介绍







Future これから

ちょっとした風景が芸術になるから、旅が楽しくなる

現場で、フォトグラファーの方に撮り方を教えてもらうことはありますか？

この間、現場にニコンのD3100を持っていったんです。「私、カメラに興味あります」って顔でスタッフの器具を撮ったりしてアピールしていたら、「被写体が照明の前に立つとうまく撮れますよ」って教えてくれた上に、レフ板までいただいたちゃいました。

照明を工夫して撮られた写真は、いつもとは違っていませんか？

やっぱりプロの方の意見と小道具は貴重ですね（笑）。照明をちょっと変えただけですごくよくなったんですよ。出来映えが全然違う。家で撮るときは光がたらないし、蛍光灯で赤っぽくなったりしてしまうから、同じものでも同じようには写らないんですよ。

写真の善し悪しやカメラへのこだわりがしっかりされている佐藤さんですが、どんな写真に魅かれますか？

細部にこだわって、被写体を引き立ててる写真は素敵だと思うのですが、できあがり過ぎている写真は面白くないですね。新聞とかに載っている写真って、何を見せたいかがはっきりしているし、余計な部分や遊びがない。新聞だからいいけれど、写真単体で見たとき、わかりやすすぎて被写体に興味を持ってないじゃないですか。

同じ被写体でも、撮り方次第で印象が変わると思いますが、佐藤さんはどのように撮られていますか？

角度をよく気にして撮ります。一つの被写体を色んな角度で撮ることで、そのときの写真のテーマが変わってくるので面白いですよ。デジタルカメラだと、その場で確認して削除も簡単だし、もう少しこうしたいとか反映しやすいですね。私は写真を撮るときに誰かと一緒にいたら「これどう？」って聞くようにしています。自分で見ていいなって思っても、人が見ると自分にはない違う意見が出てくるので、色んなパターンの写真が撮れるようになると思うんです。

これから先、どんな写真を撮っていきたいですか？

風景をきれいに撮れるようになりたいです。せっかくD3100を持っているので、携帯電話のカメラで撮りきれいなような写真が撮れたらいいな。携帯電話のカメラで撮ると、見た風景をそのまま切り抜けるんです。後で見返したときに、「ああ、こういう景色だったんだらうな」って思える。でも、そこに大きな感動はないんですよね。D3100で写真を撮るときにいつも思うんですが、ちょっとしたことが芸術っぽく写るんですよ。陰影や背景のボケ具合が相まって、何でもない風景がロマンチックに見えます。

旅行にカメラを持っていかれる方が多くいますが、佐藤さんは持っていかれますか？
そうですね。旅先で見たものを写すのには凄くいいなと思って。旅がロマンチックになりますよね。これからも旅行や現場に持って行って、バシバシ撮っていきます。また現場でフォトグラファーさんに撮り方のコツを教えてもらって、カメラを使いこなしたいですね。先日いただいたレフ板も、もっともっと活用していきたいです。

パワーアップしていく、佐藤さんの写真が楽しみです。ありがとうございました！



[> コンテンツトップへ戻る](#)

※掲載している情報は、コンテンツ公開当時のものです。

株式会社 **ニコン** 映像事業部

株式会社 **ニコン** イメージング ジャパン

© 2019 Nikon Corporation / Nikon Imaging Japan Inc.